

## 序

当研究所は、昭和56年度も恒例の事業として教育論文集の刊行を企画し、論説の部、実践記録の部に分けて原稿募集をしましたところ、各学校の先生方から10編の原稿をお寄せいただきました。

本年は、10編のうち1編が論説、9編が実践記録となっています。

論説の内容は、生涯教育の視点に立った勤労者の教育機会拡充としてのリカレント教育の重要性が提言され、生涯教育のあり方を追求しています。

実践記録の内容は、学校における教育活動の全体像をしっかりとらえ、その上で児童生徒自らが学んでいくところに視点をあてた研究実践であり、点としての教育活動から面としての教育活動を指向したものであると考えます。

また、これまでも翻訳されてきましたアメリカ教科書については、引き続き今回も「自己表現と行為」が紹介されています。翻訳された紹介と合わせて、研究所保管のアメリカ教科書を読まれるようおすすめいたします。

いずれの論文も、最近の教育思潮を的確に把握しながら、学校経営的視点や生涯学習の視点からの研究の様子が伺われます。また、アメリカの中学校の様子をはじめ、学校の継続的・組織的な研究実践もあり、研究の深まりがみられます。このような学校や先生方の姿勢こそ、今後の新しい足利の教育を築く大きな原動力になり、大きな期待を感じております。

以上、各学校や先生方からそれぞれ特徴をもった論文をお寄せいただきましたが、各学校における日々の教育実践に十分生かされ、本市教育の発展に寄与されることを期待いたします。

終わりに、論文をお寄せくださった先生方をはじめ、関係者の方々にお礼申し上げますとともに、みなさまのますますの御活躍を祈念して序といたします。

昭和57年3月

足利市立教育研究所長

山崎政三